

# 碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認 可  
神奈川 碩 心 会 発 行

59年3月現在会員数  
逗子地区 148名  
葉山地区 296名  
大船地区 66名  
(合計) (510名)

59年3月号(140号)  
発行 者 萃 岳  
根 岸 岳 集  
編 村 愛 岳  
中 村 愛 岳

## 日本詩吟学院憲章

我が日本詩吟学院の濫觴は、昭和の初頭、吟道宗範木村岳風先生の創立に始まる。明治、大正の欧米文化の導入に伴い、人心ややもすれば浮薄に流れ、民族本来の質実剛健の気風その影を失うことをおそれ、社会教育の緊要性に鑑み、率先して先賢の詩歌朗吟の道を講じ併せて吟道報国の指標を樹立し、専ら青少年及び成人に対し、崇高なる精神の育成と人格の完成を目ざし、個性ゆたかな日本文化の創造と発展に寄与することを目的とし、本学院を創立したるにその源を発するものである。

この意図に基いて本学院は創立されたものであって、現在及び将来本学院に関与するものその運営に当るもの能くこの意を体し、その因って来る根源を重視し、進むべき将来の指標に過誤なきを期さなければならぬ。

これをもって本学院の憲章とする。

## 碩心会常任理事会概況

日時 三月八日(休)十八時～二十一時半  
会場 逗子A支部教場

### 一、温習会開催に関する件

1. 日時 六月三日(日)

場所 逗子図書館ホール

2. 合吟コンクール出場資格は八段まで。

3. 優勝カップの取扱については従来三年連続優勝の場合は返還せず贈与することとしていたが、本年からは連続優勝にかかわらず毎年返還する。

4. 合吟コンクールの審査委員は、昇段、伝位等資格審議委員会規定に定める資格審議委員がこれに当ることとする。

### 二、昇段・伝位等資格審議委員の増員

左記の九段取得者六名を増員し、計十三名を以て構成することとされた。

加藤圭岳 中村幸岳 竹石憲岳

千葉劔岳 千葉香岳 中村愛岳

### 三、県本部創立三十周年吟道大会の件

1. 日時 七月二十九日(日)

場所 神奈川県民ホール

2. 出吟人員 約二百名(合吟四題)

3. 費用、出吟料(五百円)は各人負担

分担金(三百円)は碩心会会計より

### 四、新支部の発足承認について

一色B支部・行谷佳風(準師範)の指導研修会員が十四名に達し、申請により審議の結果、四月一日付にて新支部の発足を承認することとされた。

### 五、総本部会費の件

(58年11月～59年3月)の間に入会した会員の五十八年分総本部会費の預り金は五十九年度に振替充当することとする。他会への招待出吟に係る祝儀等費用の負担について

県本部所属の各会記念大会に招待された場合の祝儀等贈与額については半額、交通費は全額を、碩心会負担とし、この取扱いは五十九年一月一日より適用することとされた。

総務部長 加藤圭岳

### ◎許証料の納入について

各支部長さんのご協力を頂き、毎回許証料は審査合格後、早速納入していただいております。然し中には大分おくれ、こちらから請求しなければ忘れていられる支部もあります。

合格者名簿を申請書に書替えて、許証料

を添え、なるべく早く申請、温習会で許証

授与が出来るよう処理するのです。全支部納入しませんと完全処理できませんので納入期日を励行下さる様御協力お願いします。尚三月十八日の春季許証料は三月三十一日までに必ず納入して下さい。

許証部長 中村幸岳

### ◎総本部費について

来月は四月一日現在の会員数を総本部に報告し、同時に会費を納入することになっております。各支部におかれましては、一日現在での会費(一人七百元)の準備をお願いいたします。

尚各支部から納入して戴くのは、四月十五日以後、月末までにお願ひする予定。

会計部長 秋元梁風

### 高段者審査を終えて

上山口支部 石井庸風

二月二十六日、平塚農業会館に於て、湘南地区・横須賀第二地区の七・八段の昇段審査が行われ、参加した一人ですが、今回の審査で私の感じた事が少しでも参考にな

れば幸いです。

九時開会、まず受審者への注意と、各審査担当の諸先生の紹介があり、九時三十分より、受付で渡された番号により、第一～第五の各室に分れ、厳正な審査が行われました。天候の関係もあって、審査は早目に終了し、引続いて各室担当代表の先生方から講評があり、書取の符付、漢詩、和歌、俳句、新体詩等について詳しい説明がありました。終って審査委員長の新田先生より全員合格のお言葉にホッとしました。最後に常盤本部長のお話の中で厳しいお言葉があり、七十五点以上取らないと不合格になるが、全員合格を聞いて胸にじんとききました。審査をされた先生方としては一人も落す事の出来ない、苦しい立場にあって温情ある採点をされた事と思います。合格点を付けて下さった先生方に感謝すると共に、不断からの勉強、努力の必要を身に沁みて感じました。

## 高段者審査を省みて

堀内支部D 高梨誓風(83才)

二月二十六日午前七時過ぎ、家を出る時から厳しい寒さで、逗子駅へ着いた頃から雪が降り出し、平塚駅へ降りた頃はうっす

らと白く積っていました。でもこの寒さ苦心を引締めるにはよいのではないかと思われました。

私は高令者のため、今回は審査を見送るうかと思っておりましたが、日頃懇切な御指導をして戴いている中村愛岳先生から、是非受けなさいという御言葉もあり受審することに致した次第です。

何回審査を受けても、審査員の前に立つと上ってしまうのは人の常とでもいまいし、ようやく、終って出て来る人達の間からも同じような声が聞こえてきました。全員の吟も終り講評の結果、全員合格と発表のあった時の喜びは、学校時代を憶い出して、感慨深いものがありました。

帰りの電車の中で先生からこの次は皆伝ですネと云われ、とてもとても思っています。三年後ボケずに、記憶力の減退しない限り先生のお言葉に従うのが師に対する礼ではないかと考え頭張る心算であります。皆様の温かい御指導を切に願います。



波瀾の人生

## 北條政子

殊のほかきびしかった寒さも、三月に入り、ここ二、三日ようやく緩んできた感じ。そして何となく早春の鎌倉が浮んできて、今月は「北條政子」の事でも書いてみようなんて思い、歴史の本をひもときながらまとめてみる事にいたしました。

(政子の生い立ち)

今からおよそ八百年前の頃、伊豆はまだ陸の孤島と呼ばれる僻遠の地であった。都では貴族の政権がはつきり衰退の色を見せてきた頃、伊豆においては、坂東武者の力強い息吹きが聞こえ始めていた。保元二年(一一五七)、北條政子は、この地に勢力を張る土豪北條時政の長女として生まれた。

(頼朝との出会い)

この頃平治の乱に敗れた源頼朝は、殺されるどころを危うく一命を長らえて、北條館からほど近い蛭ヶ小島に流されてきた。流人とはいえ、源家の御曹子である頼朝から、一介の土豪の娘政子に、思いがけず恋文が届いたのは、政子二十一の時であった。この日以来政子は、この不遇な流人頼朝にいちずな愛情を傾けていったのである。

(トップレディー)

夫源頼朝は二十年の流人生活ののち、ついに平氏打倒の旗上げに踏切ったのであるが、石橋山の合戦に惨敗。この時政子は、頼朝と結ばれた思い出の伊豆山権現に身を潜め、不安のうちにひたすら夫の武運を祈った。奇跡的に落ちのびた頼朝は、安房に渡って再び兵を集め、二カ月後には、富士川に平家の大軍を迎え撃ちこれを破った。そして頼朝は鎌倉に凱旋。一介の土豪の娘にすぎなかった政子は、この日から鎌倉の御台所東国一の武將の夫人としての一步を踏み出すのである。建久三年（一一九二）夫頼朝は征夷大將軍の地位につき、今や名実ともに並ぶものなき天下の大將軍であった。この時頼朝四十六才、政子三十六才であった。

（頼朝の死）

波瀾に富んだ頼朝との結婚も、政子にとっては、生涯のいちばん伴せな時期であったかもしれない。正治元年（一一九一）一月、最愛の夫であり、鎌倉の大黒柱でもあった頼朝が、にわかにかの世を去ったのである。彼女は髪を切って尼の身となったが、夫の菩提を弔って、静かに後半生を送ることは許されなかった。

（頼家暗殺）

政子は長男頼家を二代將軍につけ、鎌倉

幕府の存続を図った。しかし日ごと蹴鞠に興じ、政務を顧みない頼家に対して、御家人達の不満はつづり、政子もついにわが子頼家を犠牲にすることの決意をしなければならなかった。母政子の命により、頼家は実朝に將軍職を譲り、出家して伊豆修禪寺に幽閉の身とさせられた。この時すでに、頼家の妻の親族の多くは殺されていたのである。伊豆に幽閉のち一年、頼家は最後の抵抗を試みたが、逆に政子の父北條時政の手兵によって、二十三才の生涯を終った。この頼家暗殺計画を、母の政子も知っていたと伝えられる。

（実朝の死）

夫頼朝の死以来、政子の身辺には不幸の影がつきまとい続けた。長男頼家を失い、いま五十才にして政子は、母一人子一人の境涯であった。政子は頼家の弟実朝が、武家の棟梁としてたくましく成長するのが切なる願いであったが、実朝は和歌を好み、武家の世界からしだいに離れていった。承久二年（一一二九）一月、右大臣拜賀の式を終えた実朝は、八幡宮の階段を降り始めた時大銀杏の影から走り寄った頼家の子、十九才の公暁の刃に倒れた。

（母の願い）

鎌倉の裏駅に出て信号を右折すると、五

六分のところに寿福寺がある。頼朝の死後正治二年（一一二〇）政子が創建し、墓地の中に実朝・政子の墓という五輪塔がある。晩年の政子は毎日筆をとって観音様の絵を描くことを日課としていたという。その観音の図が今もこの寺に残っている。

（移籍）

150 寺脇歌風 一色Bより桜山Aへ

（支部長交替）

葉月支部長・理事杉山初山より青木梅山に

（入会）

609 石鍋光子 葉山町長柄一四六一―二九一

（長柄）（電）〇四六八―七五―一六〇―一三

610 鈴木美佐子 葉山町堀内一〇八五

（堀内F）（電）〇四六八―七五―一九五九

611 高橋光子 葉山町堀内六一二

（風早）（電）〇四六八―七五―〇九一三

612 榎八重子 逗子市久木八―一九一六

（真澄）（電）〇四六八―七三―二六三三

613 北村雅子 葉山町一色一〇二四

（真澄）（電）〇四六八―七五―一五三九

614 藤村房子 横須賀市秋谷四三―一三

（上原）（電）〇四六八―五六一―八四五〇

（退会）

600336 森 幸山（真澄） 391 一柳松泉（逗子A）

加藤節子（堀内A）